

### 令和5年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立千代田小学校
実施日	令和6年2月7日

〇「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

〇「自己評価」についての評価の説明及び学校の考えの欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	〇方針が明確に示され、組織的・計画的に進められている。また協力体制がすぐ取れるように、教員間で情報共有している。一方で役割が明確でない仕事が多く、気づいた人が善意でやっていて、負担が偏っていることもあり健康面に影響が出ないか心配である。 〇学校の方針が校内提示や保護者にも連絡されており、わかりやすくなっている。 〇児童が学びやすい環境のために、たくさん先生方がサポートしてくださる。 〇職員がチームワークが良い。 〇組織的に解決しようと職員全体で取り組んでいる。	A	・方針がしっかりとしておりそれに向かって職員が取り組んでいるように思う。 ・昨年度よりも更に今年度は先生方の雰囲気がいよよくなっているように感じます。先生方の表情からも見てとれます。 ・大変落ち着いた雰囲気の中で教育活動が行われており、組織的、計画的に進められていると感じる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	〇事故やトラブルはなく、避難訓練やシェイクアウト訓練を行い安全に過ごせていると思う。また今までなかった不審者対応の避難訓練が計画されている。 〇登校指導、下校指導を実施していないので、教職員が外部に出るとい習慣がない。確かに、学校外のことなので本来の業務とは言い難いが、子どもたちにとって外部のことは生活の一部なので、フットワークよく学校外に対して確かめることも必要だと思う。 〇不審者が出た時も迅速に対応できていたと思います。 〇職員間の連絡が遅れる時があるので、改善が必要。 〇避難訓練やシェイクアウト訓練を実施し、組織的にいつでも対応できるようにしている。	A	・しっかりと訓練ができている様子が分かる。 ・学校外で災害や事故など何かが起こる前に備え、担当地区や地域を決めて先生方に実際に見て回っていただきたいです。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	A	〇働き方改革を意識していますが、仕事に偏りは感じる。どうしても面談が多く、帰りが遅くなってしまふ。 〇行事をふやさない。・研修時間の短縮(事務仕事を時間を短縮)。職員会議時間短縮(事前に資料を読んでおく) 〇働き方改革はとも進んでいる。 〇管理職の先生方が意識し、調整等声掛けをしてきている。 〇まだ改善できると思う。教育課程上工夫をしているが、教育委員会など外部から降りてくることについては改善が難しい。例えば、挙手で終わるアンケートをわざわざL-Gateでやらせること(低学年は大きな負担となった)などである。 〇仕事量が全体的に減ってきている。また先生方の退勤時間が早く、時間を決めて働く職員が多く働かやすい。 〇土曜参観の保護者の出席の名簿の件をはじめ、減らせる業務はまだたくさんあると思う。それぞれの先生方のやりたいことは尊重しつつも、それを全校で行う必要性を感じません。本当に必要なもの、本質的なことをとらえていきたいと思う。 〇管理職を中心に、働き改革が行われている。 〇他の学校より人が多く雇われている。 〇通知表の所見に時間がかかるので、面談があるときはなしにしても良いと思う。 〇子どもが学校にいる時間が長いと思うので、メリハリをつけて時間割を組んでほしい。 〇知り合いの学校などは、毎週月曜日全校児童が4時間下校するので、午後はまとまった時間が確保できるといいので良いと思った。	A	・まだまだ改革途中だとは思いますが引き続き努力して欲しい。 ・教員評価からも働き方改革を積極的に進めている様子が伝わる。 ・改革が子供たちと接する時間を減らす方向に行かないことや、市への報告などが簡素化できるようになること、そのような方向に進むことを期待します。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	A	〇学び合いの仕方がこのままでいいのか疑問に感じる。 〇校内研究授業を月に2回行い、子供の様子を見とることを行っていきながら、普段の授業に生かしている。 〇学びの研修をするたびに先生方の方見方も学び、新しい視点に気付かされる。 〇教員は、月に一度の授業研究会など熱心に取り組んでいる。児童を見る力も高まってきているように見える。しかし、未だに一斉指導の、教員から一方的な授業を見かけられることもあり、授業改善が進んでいないように思う。学校課題研究と普段の授業がつかがっていないように思える。 〇授業準備にかけられる時間があまり確保されていないように感じます。 〇ICTを活用し、子どもたちに視覚的な支援を行い、授業をしている。 〇児童に合わせた工夫した授業が概ね行われている。 〇教材研究や研究授業等研修があり、そこで様々な先生の意見交換ができ、子どもの学力向上につながっていると感じる。 〇学びづくり研修を実施し、職員の授業作りの向上に努めている。	A	・研修が進んでいるのが分かる。 ・授業参観の様子から仲間とともに協力しながら学習を進めていた。 ・グループ学習ではタブレットを使用し検索したり、プロジェクターを見ながら話し合いをしたり工夫が感じられる。 ・思考能力を高めることでお互いのエラーチェックが働くので仲良くなり、仲間づくりに役立つことが非常に大きい。その反面弊害もあると思うのでメンバー構成に十分気を付けてほしい。 ・この項目については正確というものはなく、指導側にも臨機応変に対応していくことが求められる大切なこと。日々変化。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	〇千代田小学校では、「いじめはしない、させない、ゆるさない」といふまりごとがあるため、その心を持ちつつ、授業に取り組んでいる姿が見られる。 〇一人一人を大切にすると温かい学級が多く、児童が他者を大切にすることを学べる。その一方、高圧的な指導を続けたら、規則で児童をまとめようとする教員がいるように見える。もっと児童を大切にしたいと感じる。 〇豊かな心を育む授業と学級生活、授業に取り組んでいる。 〇学級だけの指導ではなく、学年で情報共有を行うなどしている。 〇子どもたちのちょっとした疑問にも耳を傾け、行っていると感じる。 〇机の上で自分の考えを深めるのも大事だが、学校以外での出来事で実際に行動に移すのが難しいと思う。(公共の場や親切について) →実際に学校の周りを歩いてみて、困っている人や気がついたことに自分から行動できる授業の時間があつたらなと思う。	A	・更にこんな工夫と前向きに教員が考えていてよい。 ・学校において絶対にいじめがあつてはいけない。これからの授業でも、身も心も健康で一人一人の心に刺さるような体験を取り組んでいてほしい。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	A	〇廊下・階段歩行等、安全面の指導を引き続きしていきたい。 〇保護者との連絡を細かく行い、家庭生活での様子を知る取組(家庭学習チャレンジ)から家庭の様子も理解することができる。 〇あいさつがよくできている。 〇グループやペアで落ち着いた態度で学習に取り組める児童が多い。 〇校長はタブレットに書き合わせた話も聞かせるように見守り、もっと児童がつながる協力的な学習を進めるよう職員に指導していた。「落ち着いた」という言葉は静かになつてほしいというように感じる。この項目はそんな校長の指導と違っているように感じる。 〇落ち着いた雰囲気は良いと思いますが、授業の評価の基準に落ち着いたことに設定していること違和感を感じる。 〇家庭状況は様々だが、落ち着いた生活できるように、職員一同が働きかけている。 〇守らなければいけないルールや約束を徹底させ、安心して過ごせる授業作りをしている。 〇クラスによると思う。学年が上がるにつれて落ち着いた授業になっていると思う。	A	・「落ち着いた」の定義が難しいですが課題に向かって話をしているのなら、それも落ち着いたということであろう。 ・学校以外でのあいさつはなかなか難しい状況ですが、まずは顔をあげる、相手の顔を見る、会釈するなど少しずつできていけるとよいと思う。 ・明るく元気な児童が多く、校内でもよくあいさつを交わしてくれていた。
資力の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のため積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	〇職員会議の中で倫理確実委員会として議題に出し、そのために見直すことができている。 〇教頭は定期的に倫理確実について時間をとり、教員が不祥事根絶について考える時間をとっている。経験年数の浅い教員が増えるので、もっと時間をとってもらいたいと思う。 〇不祥事根絶のための倫理確実委員会などが行われ、職員全体で取り組んでいこうとしていている。 〇職員などに情報提供や呼びかけを行っている。 〇決めつではなく、「どうしたの?」から始まる生徒指導を心掛けている。	A	・職員全体で取り組んでいる様子が伺え、良いと思います。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に育てて接している。	A	〇校内研究で一人一人に活動に取り組んでいるため、一人一人を認めている活動がある。 〇校内研修を通して、ヒントを得ることができた。 〇問題が起きても、先生方からアドバイスももらえ、前向きに解決のために動くことができた。 〇1人の児童に対して、複数の教員で関わりサポートしており、児童の安心につながっていると思う。 〇一人ひとりの名前を出して授業研究では発言していて、一人ひとりの頑張りを認めるという視点で子どもたちを見られるようになってきていると思う。 〇自立活動やその他授業等で、子どもの意見や発言を否定せず、言い換えて尊重するようにしている。 〇一人一人に合わせて向き合い、認め大切にしようとする態度でできている。 〇子どもと接するときに、表情や様子を確かめ、関わっている姿が多くみられる。 〇それぞれの特性や個性を認め大切にしている。 〇時間や心に余裕がないと、強い口調になっている気がするのを気をつけたい。	A	・授業を拝見している子どもの声を聞きながら対話型の指導で、子どもの支援を行っている姿が見られていた。 ・研修が実践に生かされていて素晴らしい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	〇通級指導教室・相談室と連携して、1人も取り残さない支援ができていると思う。 〇コーディネーターを中心に特別支援教育が充実している。 〇言葉がけや指示の出し方など意識し、参考になっていることがある。 〇特別支援学級の教員はチームワークよく取り組んでいる。しかし、交流授業の変更を伝ええないという場面を見かけることがある。学校全体とは言えない。 〇体制は充実しているが、日本は障害者権利条約に批准しているので、そこにあげられているインクルーシブの理念に則って、更に学校づくりをしていけるとよい。 〇可能かどうかはわからないが、特別支援学級の先生(1名)に担任を持たせずに、通常学級に支援を要する子たちのもとで行って、通常学級内で支援をする。ということがあってもよいと思う。 〇通常学級と特別支援学級で連携は取れているかと思うが、変更の連絡が行き違うことも見受けられる。 〇支援が必要な児童に対しての対応が早く助かります。 〇もっと交流学級でも特別支援の児童が活躍できる場を増やしたい。 〇校内にかがやき教室があるので体制が整っていると思う。	A	・組織的な取組となっていることが伺える。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	〇修繕が非常に早い。 〇エアコンがない教室があり、授業が厳しい。 〇校舎が古いので、安心安全とは言えない面がある。例えば、床のタイルが剥がれていることや廊下が狭く死角が多いなどである。 〇特別教室の整理整頓がよくなっていて、授業しやすい。 〇教室や廊下の整備が課題もあるが概ねできている。 〇毎月の安全点検を欠かさず行っている。危険箇所などはすぐに対応してもらっている。	A	・トイレや教室(窓ガラス)等の整備を計画的に進められている。掲示物なども工夫されている。 ・点検から修繕の流れができていることが伺える。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	〇校長教頭は、積極的に学校応援団を広げようとしている。しかし、地域間での人々のつながりが浅く、その結果、新しい地域の人材が見つからない。学校の努力だけでは厳しい面がある。 〇給食で地域の野菜を使って紹介することで、子供たちも地域とのかかわりを実感できたと感じる。 〇保護者や地域の方をもっと学校に連れられるようにしていきたいと思う。 〇茶道教室や書道教室など、地域の方に来てもらって授業を行った。 〇教室のドアを開放、学校としても常に学校公開をしているので、開かれた学校づくりができている。また、コロナ禍も落ち着いてきて、地域の方の外部指導も行っている。 〇HPの充実などが図られている。 〇学校公開日では、沢山の地域の方が来られていた。 〇改まった学校公開ではなく、日ごろから保護者にボランティアを募集して、実際のクラスを見たほうがより学校と家庭との距離が近づくと感じる。	A	・様々な工夫をしている様子が見てとれる。 ・校長先生が毎朝学校外に出て、地域を回ってくださることに感謝している。保護者だけでなく地域の方々にも思いが伝わっていると思う。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携して子どもの問題解決を図っている。	A	〇年間を通して計画的に実施すれば、学校運営協議会に対して、教職員からも提案をするなど、もっと活用できると思う。協議会のメンバーで都合のいい日を決めて実施しているから、いつやっているのかわからないなどということになる。 〇定期的に協議会を行っており、適切に運営されている。情報共有が必要であると感じる。	A	・教員評価の項目と今一つ食い違っているのよくわからない。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	〇お互いの学校を行き来できる機会が増えて嬉しい。一貫してできることが増えるといいなと思う。 〇授業を見合う期間が設けられているが、具体的に話合っていないこともあるため、うまく自分の教育活動に取り入れることができていないように感じる。 〇小中一貫教育を進めたいが、教職員の多忙がゆえにあまり推進できていない。例えば、三校授業公開週間を設定しても、どの学校も職員が休むなどして、空き時間を設けることが難しく、あまり参観ができていなかったなどである。 〇コロナ禍も落ち着き、小中での連携ができてきているように感じる。(千代田中さん、南小さんと連携もできてる。 〇卒業していった子の様子を定期的に見ることができた嬉しい。	B	・更に一歩進めたい。 ・小学校で問題なく学校生活を送っていた児童が中学校で不登校や不登校にならないよう、児童生徒の情報交換を確保に行っていたほしい。 ・小中一貫教育はいろいろ難しい点があると思います。児童生徒の実態を把握することは大前提ですが中学校の部活や小学校でのクラブ活動等お互いがやれたことのない体験を増やして欲しい。